

「JEITA 環境フォーラム2014」開催報告

◆開催日時：平成26年10月8日 14:00-17:00

◆場 所：幕張メッセ国際会議場 302会議室

◆主 催 者：環境委員会

◆担当部署：環境部

◆参加者数：106名

開催主旨

地球温暖化防止に向けて、国際的な交渉や対策が行われていますが、国連気候変動に関する政府間パネル（IPCC）報告書では「このままでは人間の生存や地球の生態系に深刻な悪影響をもたらす」と深刻さを一段と強調しています。このような中、各国の環境規制に対する対応、環境対策や社会的貢献など、企業活動における社

会的責任は益々大きくなっています。これらの分野で活躍している有識者を講師として招聘し、講演を通じて温暖化対策に関する取り組みの最新情報を共有するために「JEITA 環境フォーラム2014」を開催しました。

会場では、定員を超える聴講者が参加し、活発な質疑応答が行われました。

プログラム

1. 「気候変動枠組条約締約国会議に向けた取り組み」

講師：経済産業省産業省 産業技術環境局 環境政策課 地球環境対策室長 田尻 貴裕 氏

概要：気候変動が世界全体で取り組むべき課題となる中、日本はイノベーションの加速、JCMの推進等、攻めの地球温暖化外交戦略を打ち出し、国際交渉に臨んできた。2020年以降の「全ての国が参加する公平かつ実効性のある国際枠組み」の構築に向け、今後の国際交渉や日本の取組等について紹介。

2. 「温暖化対策のための技術政策のあり方 ～ IPCC の知見を踏まえて～」

講師：気候変動に関する政府間パネル（IPCC）

統括執筆責任者

一般財団法人 電力中央研究所 上席研究員

杉山 大志 氏

概要：温暖化問題の解決には研究開発、実証、普及の各段階に応じた適切な政府介入と、安定した経済成長のもとで日本の産業蓄積を活かした科学技術全般の進歩を図ることがカギとなる。IPCC の排出削減策の報告書の内容を踏まえた日本の技術政策のあり方について紹介。

3. 「電機・電子機器における国際標準化の概要 ～グローバルビジネスに影響を与える環境標準規格の方向性～」

講師：IEC TC111, ISO TC 268/SC1 議長

（株）日立製作所 知的財産権本部 国際標準化推進室 主管技師長 市川 芳明 氏

概要：世界共通の環境ルール作りは、グローバルビジネスにとって重要な交渉の場でもある。TC111では、化学物質管理／測定、環境配慮設計、温室効果ガス、資源効率などに関する標準化を行っており、11月に東京会議を控え、TC111における進捗概要と、議論の方向性について紹介。

4. 「ミドリムシを活用した新産業の可能性について ～エネルギーから食糧問題まで～」

講師：（株）ユーグレナ取締役 研究開発部長

鈴木 健吾 氏

概要：ユーグレナ社は、藻のミドリムシを利用した事業を5つの分野（Food（食料）、Fiber（繊維）、Feed（飼料）、Fertilizer（肥料）、Fuel（燃料））へ展開していく戦略を描いている。ミドリムシで、世界中の食料問題の解

決に挑んでいる一方で、ミドリムシによるバイオ燃料の開発も進めている。同社が発信するサステナブルな社

会形成推進に向けた今後の展望について紹介。



METI 田尻室長



質疑応答

「電機・電子業界 低炭素社会実行計画 フォローアップ調査説明会」

1997年にスタートした自主行動計画が2013年3月で終了し、2020年に向けた新たな計画である低炭素社会実行計画が2013年度からスタートしています。

初年度である2013年度の実績のフォローアップ調査の実施にあたり、「電機・電子業界 低炭素社会実行計画 フォローアップ調査説明会」（東京会場：2014年7月28日、大阪会場：2014年7月29日）を開催し、参加企業の皆様に調査の全体像や調査内容の説明を行いました。

た。両会場では約90名の聴講者が参加し、活発な質疑応答が行われました。

- ◆主催者：電機・電子温暖化対策連絡会
- ◆担当部署：環境部
- ◆参加者数：約90名（東京・大阪）



東京会場の様子



大阪会場の様子